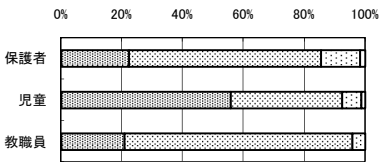


■4- そう思う □0- どちらかといえば、そう思う □2- どちらかといえば、そう思わない □1- そう思わない

学校教育目標

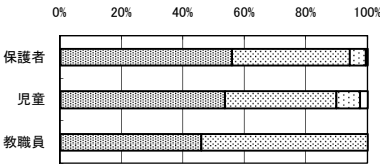
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



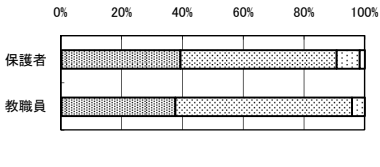
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

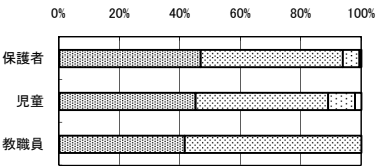


【学校から】校長の教育方針をより具体的な重点努力目標として示し、職員で共通理解して取り組むことができた。学校だよりなどで達成状況を知らせ、協力が得られるようにしていく必要がある。楽しい学校生活については、教職員は意識して取り組むようになってきている。各部で改善策を出し合い、学校として力を入れて取り組んでいきたい。教師の連携協力については、評価が保護者が3ポイント、教職員が12ポイント高くなった。学校の課題に対して、組織としての取り組みができるようになってきている。さらに、充実させる必要がある。

教科指導

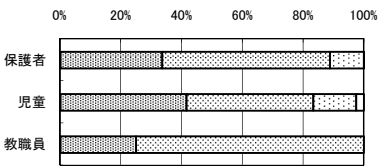
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

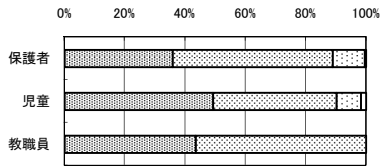


【学校から】授業づくりの工夫は、昨年度より3者ともに「工夫している」と答えた割合が増えている。生活科・総合的な学習九州大会が行われ、授業づくりの視点を明確にした授業が展開され、授業の充実が図られたことがその一因であると考えられる。意欲的な学習態度は児童と教職員の意識にスレが見られる。教職員の児童に対する期待は大きい。児童は現状に不満を感じていないと考えられる。より高い達成感や満足感を味わうことのできるような課題の設定や、個に応じた指導を行う必要がある。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

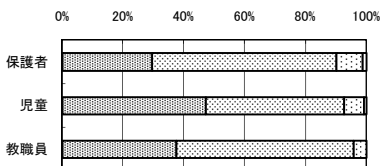


【学校から】昨年より3者とも評価が高くなった。城下町ならではの学習素材にあふれた校区のよさを生かし、地域の方の協力を得ながら、特色ある学習を行うことができた。今後も「育てたい児童像」を明確にし、深まりのある学習を重ねていきたい。

道徳教育 心の教育

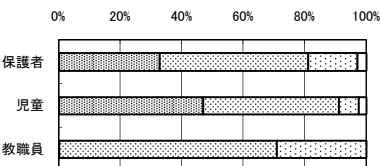
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

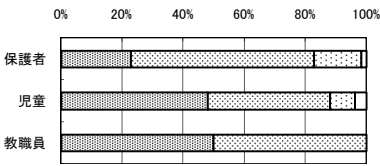


【学校から】道徳・心の教育の充実については、保護者・教職員とも評価が高くなった。道徳の年間計画にそって、授業の充実を図りたい。また、学校行事や学年行事などとの関連を図り、思いやりや感謝の心を大切にしている心の教育の充実を図ってきたい。あいさつ・礼儀の励行については、教職員の評価が29ポイント高くなった。生徒指導部からの月のめあての重点に取り上げられ、全校集会などで意識の向上を図ったことと、児童会の活動とし「あいさつ運動」に取り組んだことが原因と考えられる。これからも、定期的に全学年で取り組み、意識を高めていくことが必要である。

人権教育

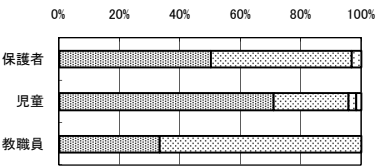
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

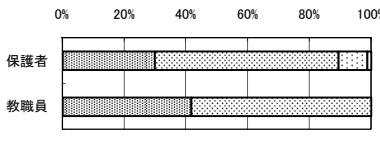


【学校から】一人一人の生徒の尊重については、評価が児童が5ポイント・教職員が5ポイント高くなった。いじめ実態調査のアンケート「こころメール」で児童の実態を把握することができた。2学期は県のいじめアンケートがあったが、いじめは減少傾向にある。友だちへの思いやりについては、1学期の授業参観では、人権学習を組み入れ、保護者への啓発も同時に行うことができた。人権感覚を磨いていきたい。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

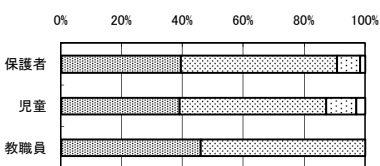


【学校から】校内支援体制や特別支援教育について情報を得たいというニーズに応えるため、取り組みや窓口となるコーディネーター等の情報を機会をとらえて保護者へ知らせていく必要がある。

生徒指導 教育相談

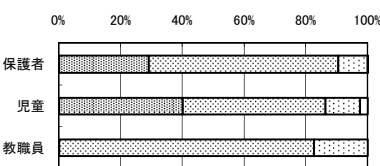
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



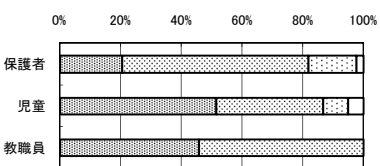
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

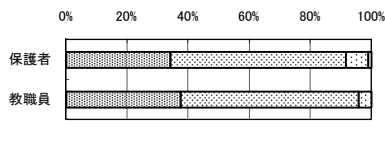


【学校から】児童の評価が生徒理解が11ポイント、規範意識が4ポイント、いじめや問題への対応が5ポイント高くなった。子どもたちには、自己肯定感を高めることができ、自分らしく生き生きとすごせる場を提供したい。そのためには児童間相互、児童と教職員が互いにより理解をすすめていくことが大切である。規範意識については、教職員の評価が15ポイント高くなった。めざす子どもの姿を具体的に伝えていくことも必要である。いじめや問題発生時には速やかに正確に対応し、しっかりと信頼関係を築いていけるよう努めているが、「教育相談週間」等を設定し、気軽に相談できるような環境をつくっていく。

健康教育 安全

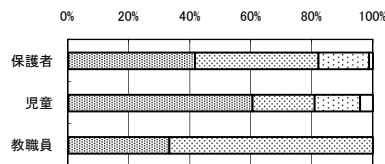
15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



16 体力向上

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

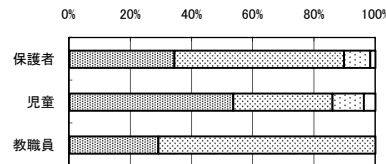


【学校から】安全と事故防止については、担当者、PTAが積極的に交通指導取り組んでいる。児童の負傷については、原因の把握に努め、環境整備をすぐに行ってきた。体力向上については、児童が7ポイント、教職員が5ポイント高くなった。これからも、すこやか活動の時間などを活用したり、遊具の整備などを進めたりすることで外遊びへの意欲付けを図っていかねばならない。

学校行事

17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

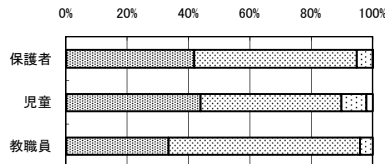


【学校から】評価が保護者が6ポイント、教職員が5ポイント高くなった。一方、児童の評価は6ポイント下がった。児童の活躍の場を増やすための工夫を行ったが、充実感や達成感が味わえるようにする必要がある。

学校環境

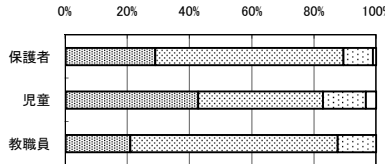
18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

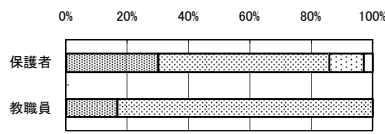


【学校から】環境の整理・美化に関しては、保護者、児童、教職員ともに、そう思うとどちらかというと思うをあわせると90ポイントを超えている。これは、常時、担当者、学年、PTAが進んで取り組んできた結果である。施設・設備の安全管理に関しては、そう思うとどちらかというと思うをあわせると80ポイントを超えるとともに、そう思う割合が昨年度より多くなっている。しかし、教職員でそう思わないとどちらかというと思う割合が多くなっている。対策の有効性をより周知するとともに、どのような安全管理が求められているのか明らかにし、誰かが気付いたらすぐに対策を講じていくようにしていく必要がある。

情報の公開・発信

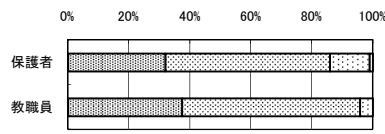
20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

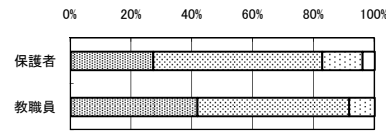


【学校から】学校便りやホームページ、学級通信等を通して学校行事や子どもたちの学習の様子などの情報発信に努めている。教材の材料や準備物については、厚さやサイズなど具体的に丁寧に保護者に分かるように伝える必要がある。教育活動への参加については、評価が保護者が6ポイント、教職員が7ポイント高くなった。本年度、授業参観の際に、アンケートを実施し教育活動の改善に役立てる取り組みを始めた。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



【学校から】評価が保護者が5ポイント、教職員が8ポイント高くなった。生活科や総合的な学習の時間の年間計画を見直し、さらに効果的な連携が行われた。依頼する場合、見直しをもって行う必要がある。

来年度の具体的な取り組みについて

- ・教育方針や教育目標については、具体的な重点努力目標を設定し、教職員間でまず共通理解を図り実践する。達成状況を定期的に評価し、児童や保護者に対しても、学校便りや学年・学級通信等で知らせ協力を得るようにする。PTA総会や学級懇談等も活用する。教師の連携協力については、各部を活性化して、組織として取り組むことを徹底する。教科指導については、新指導要領の趣旨にそった授業改善に努める。校内研究の主な柱として、言語活動の充実を掲げ、授業研究会をとおして研修を深める。
- ・「心の教育」については、さわやか朝会での校長講話、道徳の時間を中心にしながら、日常生活と関連させながら取り組んでいく。11月に取り組む心かがやけ月間でも、あいさつ運動やボランティア活動を通して、心を耕す活動に取り組む。「いじめや問題への対応」については、朝会での情報交換や研修等を通して未然防止に努めるとともに、個々の事例について校内支援委員会で検討し、早期発見・早期解決に努める。
- ・地域との連携については、本年度、6年間を通じて生活科・総合的な学習の時間で「一新のまち」について系統的に学ぶカリキュラムができたので、職員が積極的に地域に出かけて地域を知り、見直しをもって保護者や地域との連携を深めながら、教育活動を展開する。
- ・安全については、月一回の安全点検日を中心に全職員で安全のチェックをし、改善が必要な場所の早急の対応をする。日常の点検にも努める。事故防止については、職員で指導のあり方について具体的に共通理解をはかり共通実践する。
- ・体力向上については、体育の授業はもとより、朝のすこやか活動等を活用して学校全体で体力向上に努める。

学校関係者評価

- ・授業参観の際にアンケートを実施するようになったことは良い。アンケートに記述がなされた要望や苦情を「宝」と受け止め、教育活動の改善に役立てて欲しい。
- ・地域を愛し誇りに思う子どもたちを育成する取り組みが進んだ。地域を知ろうとする子どもと教師の熱意が伝わった年であった。この取り組みを続けることで、6年生の商い体験もより充実すると思う。今後も継続して、教師自身が地域の伝統や歴史を知る研修会や機会を設定して欲しいと願っている。本校区にも歴史的・文化的遺産も数多く残っており、教育活動の教材としても価値あるものが見られるため、地域をさらにしっかりと見ていただき、教育活動にさらに活かして欲しい。地域にもっとこうして欲しいとアピールしていいのではないかと、積極的に協力・支援する構えである。
- ・基本的生活習慣については、あいさつができる子どもが多いが、できなかった子ができるように、子どもたちの善い行いをほめながら、家庭や地域との連携の中で、根気よく指導してもらいたい。
- ・安全が第一である。安全マップや不審者情報などを閲覧してもらうように自治会にお願いし、地域の大人が気が付けて見守るようにしないと危ないと思う。CAPプログラムは今後も続けて欲しい。
- ・生徒指導・教育相談で、1の評価をしている児童が見られる。「何かあるのかな」と受け止め、教育相談をさらに充実させ、相談しやすい環境をつくって解決して欲しい。設置してある相談箱や提案箱に児童が困っていることや苦情を入れるようになるとうとう。
- ・教育者として、モラルは大前提である。教師自身がモラルについての研修を深めて欲しい。